

【2021年2月1日発行】

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES

日本国際文化学会ニュースレター47号

<http://jsics.org/>

日本国際文化学会事務局

多摩大学  
グローバルスタディーズ学部事務室内  
〒252-0805  
神奈川県藤沢市円行802番地  
Tel: 0466-82-4141  
Fax: 0466-82-5070  
Email: jsics@gr.tama.ac.jp

## 学会20周年を迎えて

### 多摩大学学会事務局への御礼

本号の「会長挨拶」は、2年の任期を終えるにあたっての「謝辞」が通例です。その御礼が1年延びることになった経緯は前号で報告いたしました。ここでは、2017年4月より4年間学会事務局を担って頂いた多摩大学の関係者の皆様に、心からの感謝の意を表したいと存じます。2015年、2018年には、短い期間に2度にわたり全国大会の開催もお引き受けいただきました。2010年代後半の日本国際文化学会は多摩大学によって支えられたと言っても決して過言ではありません。ここに厚く御礼申し上げます。

### 設立20年の節目に

さて、本学会は、「国際文化の振興と普及」を目的に掲げ、2001年に設立されました。しかし、設立時に「国際文化」とは、決して自明で所与のものではありませんでした。この学会を「器」に、あるいは「場」として織りなされる学術活動が「国際文化」を創出することが期待されておりました。

では、私たちはこの20年間で何を成し遂げたのでしょうか。「歴史学、文化人類学、文学、政治学、言語学などを「ひとつの大きな壺」に投げ込み、ごたませにして「国際文化」という共通の名称を貼ったところで、ひとつの学問が生まれるわけではない」「国際文化は対象領域を落ち穂拾いのようにみつけるのではなく、対象の領域を可能にする独自の概念を入手しなければならない」。実はこれは、ゲオルク・ジンメルが「社会学」について語った言葉をアレンジしたものです。一つの学問には独自の認識道具や理論・方法が備わっていなければならないというのは、古い学問観かもしれません。

1970年代に遡りますが、進学した学部で何かの

### 日本国際文化学会会長 馬場 孝



集まりがあり、すでに退官され「伝説」的な存在であられた江口朴郎先生が、「場としての学問」の意義をスピーチで説かれました。「場」とは、特定の型を押しつけるルールや規律を全体としては欠いていても、自由で自律的な「個」の集まりと振る舞いが、「個」を超えた特性を創出する空間とも言います。人文社会科学系の研究者が集う国際文化はそのような「場」ではないでしょうか。

もちろん到達点でも完成形でもないでしょう。しかし、20年間の自由闊達な私たちの学術活動で、学問としての何らかの「特性」が形作られてきていないでしょうか。国際文化は「学際性」が常に強調されます。しかし、他の学問からの理論や方法の導入一辺倒ではなく、他の学問にも貢献しうる独自性の萌芽が生まれてきていないでしょうか。

そのような可能性を検証する作業を、20周年記念事業のひとつとして常任理事会には提起いたしました。その作業に会員の皆様にご参画いただく具体的な準備ができ次第、広く呼びかけを行いたいと存じます。

### 日本学術会議第25期推薦会員任命拒否問題に関する「共同声明」への参加について

1月9日（土）の第85回常任理事会での議を経て、「日本学術会議第25期推薦会員任命拒否問題に関する人文社会科学系学協会共同声明」に「常任理事会として参加」する手続きを行いました。本件に関する対応の遅れは全

て会長である私の責任です。

はなはだ力不足ではありますが、残り1年間の学会運営につきまして、皆様のお力添えを謹んでお願いいたします。

## 2021年度第20回全国大会に向けて

2021年度日本国際文化学会第20回全国大会を近畿大学で開催させていただくこととなりました。書面開催となった第19回大会に引き続き、実行委員長を務めさせていただきます。新型コロナウイルスの状況は未だ予断を許しませんが、これまで積み上げられてきた予防策を武器として、いかなる形であっても大会を開催する所存です。

国際情勢が混迷を極めた2010年代を抜け、世界的な混乱と共に2020年代の幕が開きました。日本国際文化学会が創設された2001年以降、グローバリズムへと向かう普遍主義と、ナショナリズムへと向かう個別主義の対立はとどまることを知らず、新型コロナウイルスの感染は新たな分断を加速させているように思います。この時代に立ち会った我々は、有史以来の文化を広く見つめ、2020年代を迎えるための〈ことば〉を互いに紡いでいかねばなりません。

そこで、学会創設20周年となる本大会では、個別主義・普遍主義の問題を改めて議論して参ります。公開シンポジウムでは、人類が築き上げた文化的遺産である文学・思想・歴史・映画を切り口として、個別主義と普遍主義の錯綜を考察したいと思います。大会実行委員一同、多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

第20回全国大会 実行委員長  
高橋梓(近畿大学法学部)



## 大会テーマ

### 個別主義の壁、普遍主義の壁——2020年代を切り開く〈ことば〉

「国際文化」というタームは「普遍化」を志向する「国際」と、「個別化」を志向する「文化」の二語を内包しています。日本国際文化学会が創設された2001年以降、グローバリズムへと向かう普遍主義と、ナショナリズムへと向かう個別主義は、世界の至る所で数多くの対立をもたらしました。そして2020年の幕開けと共に到来したCOVID-19の混乱により、国家や自治体が閉ざされる中で、我々は改めて国際社会における他者との交流のあり方を問い直されています。混

乱の中で2020年代を迎えた我々は、新たに顕在化する個別主義の壁、普遍主義の壁の前に、我々はどのような〈ことば〉を紡ぐべきでしょうか。この問いは「国際」と「文化」の二方向の力学を考察対象とする国際文化学が抱える課題であると言えるでしょう。第20回全国大会では、学会創設以来20年の議論を振り返りつつ、2020年代の国際文化学のあり方を再検討できれば幸いに思います。

## 共通論題の発表タイトル

共通論題①「オリンピックと政治宣伝(プロパガンダ)—1930年代の事例を中心に」  
代表者: 鈴木裕輔(名城大学外国語学部准教授)

共通論題②「社会的分断の時代における政治コミュニケーション: 国際協力活動に焦点を当てて」  
代表者: 湯浅拓也(青山学院大学博士後期課程)

# 第20回全国大会 開催要項

## 【開催日時】

2021年7月10日(土)～11日(日) ※7月9日(金)エクスカーション

## 【開催大学】

近畿大学法学部(EキャンパスC館)

※新型コロナウイルスの感染状況により、オンライン開催となる可能性があります。

## 【大会日程】

※自由論題の採択数等によりスケジュールが多少変更されることがあります。

7月10日(土)		7月11日(日)	
受付	9:00～	受付	8:00～
自由論題I	10:00～12:00	自由論題II	9:00～11:00
昼食・大学院生交流会	12:15～	昼食	11:00～
理事会	12:15～13:15	総会ほか	11:10～12:50
共通論題	13:20～15:20	フォーラム	13:00～14:30
基調講演	15:30～16:30		
公開シンポジウム	16:45～18:15		
情報交換会	18:30～20:00		

## 【宿泊先】

宿泊に関しては各自でお願いいたします。近畿大学周辺にはホテルがありません。東大阪市内であれば布施・河内小阪の周辺、大阪市内であれば大阪上本町・難波の周辺が本学にアクセスしやすく便利です。

## 【大会参加費・大会申込】

大会参加費と振込先については、今後ニュースレター等でお知らせいたします。

## 【交通アクセス】

- ◆[JR新大阪駅]→(JRおおさか東線)→[近鉄俊徳道駅]→(近鉄大阪線)→[近鉄長瀬駅]→(徒歩)  
※約50分
- ◆[JR大阪駅]→(JR大阪環状線)→[JR・近鉄・鶴橋駅]→(近鉄大阪線)→[近鉄長瀬駅]→(徒歩)  
※約35分
- ◆[大阪伊丹空港]→(リムジンバス)→[近鉄大阪上本町駅]→(近鉄大阪線)→[近鉄長瀬駅]→(徒歩)  
※約60分

## 【エクスカーション】

飛鳥・橿原文化は、5～7世紀の国際交流が結実したものであり、史跡や文化財から世界との繋がりを見出すことができます。それは国際社会を生きる現在の我々に新たな視座を与えてくれるものです。このエクスカーションでは学芸員の協力のもと、古代文化を身体的に体験することを通じ、本大会のテーマである「個別主義の壁、普遍主義の壁」の議論の一助としたいと思っております。詳細はニュースレターや学会ホームページでお知らせいたします。

## 【大会事務局】

大会実行委員長:高橋梓(近畿大学法学部)

連絡先住所:〒577-0813 東大阪市新上小阪228-3 EキャンパスC館5J

近畿大学法学部 高橋梓研究室気付

連絡先メールアドレス:intercultural\_2021@jus.kindai.ac.jp



ICCO(文化交流創生コーディネーター資格認定制度)  
運営事務局長  
**松居竜五**  
(龍谷大学国際文化学研究所)

残念なお知らせをしなければなりません。

ご承知のように、2020年度のICCOは、昨年3月頃から急速に拡大した新型コロナウイルスの影響で、短期集中セミナーなどの関連事業の中止を余儀なくされました。すでにセミナーを修了した参加者の資格取得のための申請のみ、2021年3月31日締め切りで受け付けています。

そして2021年度ですが、今、この記事を書いている1月末時点で、コロナ禍についてはまだまだ先が見えない状況が続いています。この状況で、4月から短期集中セミナーの募集を開始し、8月に数十人の学生が一週間の合宿を挙げるかと言えば、不可能という結論を出さざるを得ません。

と言うことで、2021年度も2020年度に引き続き、ICCO短期集中セミナーは中止とすることをお伝えすることになってしまいました。これまで短期集中セミナーが果たしてきた役割と、毎回の盛り上がりを見ると、本当に残念です。

しかし、これを奇貨として、事務局としてはこれまでできなかったことを休業期間中におこなっていきたくて考えています。まずは、過去の修了者に対

するアンケートを計画しています。これまで、各参加校からさまざまな個性的な学生が集まり、協力して素晴らしいフィールドワークをおこなってきたことは、すでに本ニューズレターや学会誌において紹介してきたところです。こうした参加者に対するフォローアップをしていきたいと考えています。

また、短期集中セミナーの開催地の基盤整備にも取り組みたいところです。これまで、京都二年、沖縄二年、京都一年、とおこなってきたセミナーは、おそらく再開後もまた京都でおこなわれることとなります。その際、すでにかなり開拓してきた京都でのフィールドワークに加えて、近隣の関西圏も視野に入れたプロジェクトを、参加者には立ててほしいと考えています。そのためには、特に関西圏の参加校と緊密に連携しつつ、受け入れ体制を強化していく必要があると思われます。

以上のように、2022年度(ぜひ)にはさらにパワーアップしたかたちで短期集中セミナーを開催したいと思います。みなさま、ご期待、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

### 龍谷大学が新しく日本国際文化学会の事務局になります

これまで長年にわたって日本国際文化学会を事務局として支えていただいた多摩大学に代わって、2021年4月から龍谷大学の松居竜五研究室で事務局を引き受けることになりました。

事務局長の安田震一先生をはじめ、多摩大学の事務局としての能力は組織力、機動力など他の追随を許さないものだったと思います。新しい事務局は、なにぶん個人の研究室単位のもので、まったく足もとに及ばない規模です。ICCO事務局とも兼務することになります。学会全体で事務局機能を分担するというお約束でお引き受けした次第ですので、みなさま、ぜひご協力をよろしく願いいたします。

### 若手研究者紹介への記事募集

本ニューズレターにて連載中の若手研究者紹介に掲載を希望される方を募集します。お問い合わせは学会事務局までお願いいたします。

(学会事務局Eメール:jsics@world.ryukoku.ac.jp)

日本国際文化学会事務局長

**安田震一**

(多摩大学グローバルスタディーズ学部)

多摩大学グローバルスタディーズ学部は、日本国際文化学会第7代会長、岩野雅子前会長様(山口県立大学国際文化学 研究科長、国際文化学部 国際文化学科教授)の就任と共に2017年4月1日より事務局を預らせていただきました。1期2年を終了し、第8代会長様の馬場孝教授(当時:静岡文化芸術大学 文化政策学部国際文化学科教授)のもと、事務局の2期目を迎えさせていただきました。そして2021年3月末にて事務局をお預かりして2期4年が無事に終了いたします。

この間、会員の皆さまより多大なる助言や支援をいただき、無事に事務局としての役割を果たすことが出来たことを嬉しく思っております。とりわけ初年度は、年間スケジュールすら理解しておりませんでした。そこから一步ずつ前進することを心掛け、とりわけ会員の皆さまには「ご迷惑を掛けまい、ミスは極力抑える」を合言葉に邁進して参りました。我々事務局員にとって学会と共に成長する非常に貴重な経験をさせていただきました。

本学部では、一回目の全国大会、第14回(2015年)に続き事務局2年目の2018年7月には、第17回全国大会を開催させていただきました。本学部にて全国大会を2回開催させていただきましたこと、会員の皆様に感謝しております。学生に全国大会とは何なのかを披露する素晴らしい機会を日本国際文化学会が与えてくれたと感謝しつつ取り組ませて頂きました。また当時のフォーラムでは「ICCO文化交流創成コーディネーター資格認定制度について考える:発足から4年を経過して」を企画させていただきました。ICCOについての説明会を開催して下さったこと

で、翌年のICCO資格認定セミナー(公立名桜大学にて開催)に本学部の学生が初めて挑戦することになりました。そこからは、2019年のICCO資格認定セミナー(龍谷大学)に二人目の挑戦者がでたことを嬉しく思っております。こうしたことで、初めて学会に多少なりとも貢献できたと思えるようになりました。

学会事務局の主なタスクは会費管理、ニューズレターの発行、会員への連絡および情報共有など多岐に渡ります。言うのは簡単ですが、実際にやってみると、それなりに一通り作業を理解するまで少なくとも1年は掛かったと記憶しております。さらに本務校の仕事が忙しくなりますと作業を失念することもあり、会員の皆さまの忍耐力には大変感謝しております。

会員の皆さまに支えられた2期4年、アツという間に過ぎ去りました。その間、事務局内では和気あいあいと作業を担当させていただきました。日本国際文化学会の今後の発展・会員増加を祈願しつつ、次の龍谷大学様へ移管させていただき所存でございます。会員の皆さまと共に学会の発展・拡大に寄与できた機会に感謝しております。皆さま、ありがとうございました。

新事務局連絡先:

〒612-8577

京都市伏見区深草塚本町67

龍谷大学国際学部 松居研究室

電話:075-366-2223(研究室直通)

メール:jsics@world.ryukoku.ac.jp

## 事務局より

年度末となって参りました。会員の皆様におかれましてもご所属の変更に伴い転居が必要になってくることもあるかと存じます。大変お手数かと存じますが、ご住所・ご所属の変更の際は学会事務局までご一報いただきますようお願い申し上げます。

## 国際文化学と 複眼的視座



史料収集の一環で訪れたシカゴ大学(2017年)

日本国際文化学会への入会のきっかけは、私の所属する東北大学大学院国際文化研究科の先輩方が立ち上げた「東北大学国際文化研究会」への参加にあります。この研究会で「国際文化」を追求する先輩方の熱量に圧倒された私は、その後日本国際文化学会に入会し、2019年には長崎大学で開催された第18回全国大会の自由論題で発表させていただきました。

上記の研究会には積極的に参加しており、現在では私が代表を務めています。定期的で開催している読書会では平野健一郎先生の『国際文化論』や『インターカルチュラル』の掲載論文などを読み、東北大学名誉教授であり日本国際文化学会元会長である小林文生先生からはアドバイザーとして様々な意見をいただいています。2019年の夏から冬にかけての読書会ではキャロル・グラック著『戦争の記憶：コロンビア大学特別講義—学生との対話』（講談社現代新書、2019年）を読みました。これが一つの契機となり、2020年2月17日には、同書の基となったコロンビア大学特別講義の取材に携わった「ニューズウィーク日本版」の小暮聡子記者を招き、国際文化シンポジウム「〈戦争の記憶〉をめぐって」を主催しました。当日は日本国際文化学会の会員の方々から駆けつけていただき、会場は「戦争」の「歴史」と「記憶」をめぐり終始熱気に満ちていました。共催機関である日本国際文化学会によるご協力があったからこそ、このシンポジウムを開催できました。心より感謝いたしております。

また私は今回、日本国際文化学会の『国際文化キーワード辞典』(仮)における「キーワード抽出基礎データの作成」に携わらせていただきました。『インターカルチュラル』の論文や全国大会の抽象トクトを読み、キーワードの抽出を行いました。この作業を通して国際文化学における様々なテーマを学

## 阿部純(東北大学大学院国際文化研究科)



学会発表中の様子

(Historians' Workshop 10th Research Showcase, 2020年)

ぶと同時に国際文化学が持つ可能性を改めて実感しました。今後とも国際文化学の発展に向けて微力ながらも貢献したいと思っています。

現在は博士論文の完成に向けて日々執筆に取り組んでいます。私が研究しているのは20世紀後半のアメリカ合衆国で展開した日系人リドレス運動です。これは日本軍による真珠湾攻撃後のアメリカで実施された日系人強制排除・収容に対して謝罪と賠償を請求した日系人の社会運動であり、1988年の「市民的自由法」の成立をもって決着したとされます。従来、この法的措置を以ってリドレス運動は無数に存在する国家暴力への救済を求める運動において史上類をみない「成功」として語られてきました。ただし近年では、リドレス運動を批判的に再検討する研究潮流の中で分析の対象や期間の射程範囲が広がりを見せており、この運動やリドレスをめぐる言説を国際関係の中で検討する重要性も高まっています。

私の研究もこうした潮流を発展的に汲むものであり、広域的・多角的な視点からリドレスの運動や言説を研究することが重要となります。研究対象を多面的に考察する重要性は全ての研究分野に共通するものですが、特に私にとって国際文化学とは自らの視野を広げる上で不可欠なものであり、研究のアプローチという点でも示唆的です。本学会の全国大会や先述の東北大学国際文化研究会への参加もまた複眼的視座から物事を見る能力を高める絶好の機会です。「国際文化」を通して様々な研究分野の方々やテーマ、アプローチに触れることで自身の研究を進めることができていると実感しています。これからも精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い致します。



## 国際文化学から 「ことば」を見る

私の国際文化学との出会いは、博士後期課程1年の時に中国の南開大学で口頭発表した際、東北大学国際文化研究会(以降、稲穂会)で私と共に副代表を務めている亀山光明会員から読書会に誘われたことでした。私は言語学を研究したいと考えて、東北大学の国際文化研究科の博士後期課程に入学しましたので、国際文化学について、その時点ではまったく知りませんでした。そこから、稲穂会顧問の小林文生先生や代表の阿部純会員の誘いもあり、日本国際文化学会に入会しました。その後現在に至るまで、稲穂会や日本国際文化学会で得た知識を基に、少しずつ国際文化学について学んでいるところです。

さて、ここから少し私個人の研究の話を書かせていただきます。私の大きな研究テーマは「名詞の意味とどのようなもので、新語の創造やことばの理解にどのように関与しているのか」です。これは、現在博士論文に向けて研究している「名詞の動詞化」のような言語規則に重点を置いたものだけでなく、名詞の意味に影響を与える背景知識も含まれます。後半部分が国際文化学と関わってくるところになります。ある人の発話やある人の書いた文を意味理解する際に、名詞が持つ文化特有の背景知識が働いて、コミュニケーションが成立しない、または発話者に対して悪い印象を与えることはないか、そしてそれはどのような仕組みで起きるものであるのか、そしてその解決策はないのか。そういったことが国際文化学との関連での私のテーマになります。言語学に興味を持ったきっかけは、高校生のときに、池上嘉彦氏や鈴木孝夫氏の著書を読み、ことばと文化や文学の関係性について興味を持ったことでした。国際文化学の中でのことばの意味の研究は一種の原点回帰のような部分もあり、言語学の理論的研究ではないからといって、決して研究の枝葉の部分というわけではありません。

日本国際文化学会に入会させていただいて以来、実に様々な機会を与えていただきました。2020年2月には、学会から補助金をいただき、シンポジウムを開催させていただきました。このシンポジウムでは、キャロル・グラック氏の『戦争と記憶』を読む読書会で議論したことを基礎に発表を行いました。私の担当箇所は「慰安婦の記憶」ということで、少々語り方に気を遣うテーマであったこと、また研究会でも様々な立場からの意見があり、そのまとめに苦労しました。発表の中で、私の意見を含むものとして取り上げたのが、

### 増淵佑亮

(東北大学大学院国際文化研究科)



執筆者近影

オーラルヒストリーの研究手法に対する疑問とその疑問に対するグラック氏の回答、そしてグラック氏の定義する「記憶」の応用可能性です。どちらも自分の専門分野の方々だけと議論していたのでは、考えもしなかったことでしょう。様々な専門を持つ人たちが集まった国際文化学の研究会であったからこそ、こうしたことについて考える機会ができました。私どものシンポジウムに対してご支援いただきまして、御礼申し上げます。

さらにありがたいことに、『国際文化キーワード辞典』(仮)の「キーワード抽出基礎データの作成」に稲穂会代表の阿部純会員と共に関与させていただきました。このキーワード抽出作業を通じて、国際文化学の論文や、全国大会のアブストラクトを読んだことが国際文化学の中にある様々なテーマについて学ぶ機会となりました。

国際文化学の枠組みでの研究において、成果が出せるように、日々精進して参ります。

## 【募集】全国大会の自由論題

- 自由論題は原則として個人研究発表ですが、内容により複数の発表者による発表も可とします。
- いずれも発表時間は質疑応答も含めて30分とします。質疑応答の時間が十分とれるよう、発表時間の目安を20分程度としてください。
- 応募は日本国際文化学会の会員に限ります。ただし、現在学会会員でない方は、申し込みと同時に会員登録および年度会費の納入を行うことにより資格を得るものとします。
- 応募は、氏名・現職(大学教職員・有識者・企業や団体・研究所等の場合は所属と肩書き、大学院生・学生の場合は在籍課程など)を明記
- 連絡先・自由論題発表題目・キーワード(3~5語)を冒頭に記し、発表要旨(40字×25行以内)をつけて、2021年3月20日(必着)までに全国大会実行委員会(intercultural\_2021@jus.kindai.ac.jp)までメールにて提出をお願いいたします。

\*応募の詳細については、下記HPより「全国大会発表要項」をあらためてご確認ください。

<http://www.jsics.org/conference.html>

\*なお、来年度全国大会の現地開催が不可となった場合には、「書面開催」方式ではなく「オンライン」方式とする予定です。開催方法については、4月の常任理事会にて決定する予定です。

## 【募集】第11回平野健一郎賞

第11回平野健一郎賞の募集を開始しますので、多数の応募をお待ちしております。応募に関しては学会ホームページの平野健一郎賞規程をご覧ください。

- 応募締め切り:2021年4月30日
- 応募書類:応募種類は審査後に返却いたします
- 応募結果の発表:第20回全国大会総会において発表し、授与式を行います。
- 応募先:日本国際文化学会事務局宛て

〒612-8577京都市伏見区深草塚本町67

龍谷大学国際学部 松居研究室

電話:075-366-2223(研究室直通)

メール:jsics@world.ryukoku.ac.jp

## 会費納入のお願い

- 2020年度の会費納入がまだの方は、お振込みをお願いいたします。
- 振込用紙がお手元がない場合は、郵便局のお振込用紙をご利用ください。その際、ご所属・連絡先・お支払いの会費年度のご記入をお願いいたします。
- 事務局移転の関係で2月末までと3月からの振込先が異なります。2月末までは従来の振込先(下記左)を、3月からは新たな振込先(下記右)となります。

### 2月末まで(従来の振込先)

[振込先口座番号]

ゆうちょ銀行 00210-2-138408

日本国際文化学会

\*他行等からの振込先口座番号は下記の通りです。恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

ゆうちょ銀行

店名:〇ニ九(ゼロニキュウ)店(029)

当座 0138408

### 3月1日より(新しい振込先)

[振込先口座番号]

ゆうちょ銀行 記号14410 番号3928901

日本国際文化学会

\*他行等からの振込先口座番号は下記の通りです。恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

ゆうちょ銀行

店名:四四八(ヨンヨンハチ)店(448)

普通 0392890